

## 第 41 回インナーゼミナール大会

### 研究計画書

<b>ゼミ名</b>	拓植ゼミⅡ	<b>チーム名</b>	チーム Up Step Jump
<b>タイトル</b>	『よりよい USJ を作るには』～学生目線から改善策を提案～		
<b>テーマ群</b>	g)その他		
<b>メンバー</b>	入澤千有希、小島博夢、齊藤友基、森口裕子、 松藤彩矢、山田崇弘、吉岡奈津美		
<b>研究計画内容</b>	<p>私たちは、「関西最大級のテーマパーク、ユニバーサルスタジオジャパンが学生にとって、よりよいものになれば良い」「よりよいものにしたい」と思いました。</p> <p>そこで、私たちの研究に対するリサーチクエスチョンを「USJ がよりよくなるために、学生はどれくらい支払うことができるか。」と設定しました。そのために自分たちで独自の改善策を考え、その改善策を、今まで学んできた環境経済学の手法を用いて検証し、実際に USJ 側に提案することにしました。</p> <p>まずは、学生が USJ に今持っている印象や要望を把握するために、一回目のアンケートを実施します。次に、学生だけでなく USJ 側の意見も聞く必要があると思うので、実際に USJ に行き、インタビューを実施します</p> <p>この 2 つの結果を元に、自分たち学生だからこそ考えることができる学生目線に立った独自の改善策を数個考案します。</p> <p>次に、その検証として、再度学生に対してのアンケートを取ります。その結果を、環境経済学の手法である CVM(仮想評価法)を用いて検証します。自分たちが考案した改善策の効果を明らかにします。</p> <p>その後、アンケート結果・改善策の検証結果を、USJ 側に提出し、USJ 側の意見を聞いて、自分たちの考案した改善策の問題点を把握し、よりよい改善策が出来るように、再度手直しを行います。</p> <p>それをもう一度 USJ に送り、検討してもらった結果、数個の改善策のうち 1 個でも実際に実施されて、学生にとってよりよい USJ になると、私たちの研究は成功です。</p> <p>実際に実施されなくても、私たちが提案した改善策が少しでも参考になり、USJ がこれからよりよくなるということで、私たちの研究は成功であると言えます。</p> <p>以上が、私たちの研究計画です。よろしくお願ひします。</p>		